

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	【1】	新設時からしばらくしてGH特有の介護の要素をまとめ大別して、コンセプトに準じて理念作成をその時の職員と実施した。内容は的確に認知症介護の内容を網羅してバランスを考えていると思う。平成31年1月の施設内研修と強化月間としての全職員による再確認を実施。	新設時に創設された施設としての理念を、ただ掲げてある物とせず、全ての職員がその意味や大切さを理解して関わりと仕事へどのように生かしているかを認識できるようにする。	施設内研修にて年に1回は常勤職員全員で施設の理念について、その意味や取組みの理解をする。	12ヶ月
2	【9】	出来るだけ本人の希望を聴き、快適で安心の出来る対応をするが、自宅での生活を望まれる言葉が出る場合は、周囲の関わる人の言動が作用する場合もあり、どこまで本心で言われているのか、また、実際の自宅生活での困難さと危険についての説明をする場合の本人の不安を増長させる危険性などの配慮も含め適切に検討するようにしている。家族や本人と安全と安心、心地良さの支援が整えば、施設は自宅の様に思えてこなくてはならないのではないかと思う時もある。	各利用者様の思いや意向の把握を、勤務している全ての職員が、的確に自分たちの思惑でなく、利用者様の健全な思いである事を明確に認識して、それを適切に証明できるように記録に残した上で、自分たちの力でのようにか工夫して対応出来るようになる。	毎日の利用者様の生活計画を夜勤時等に把握して、毎日の変化する利用者様の要望を、施設で考案されたTカードを使用して的確に答えを出して、対応している事を書類にて証明できるようにする。	12ヶ月
3	【14】	身体拘束・虐待予防委員会や年間の研修計画に個人のプライバシーや尊重についてふれている。また、声掛けに関しては、命令しない、怒らない等、利用者様に配慮した声掛けをする様に回覧させ、確認の印鑑を貰っている。	身体拘束に関する対応を毎月、委員会活動にて実施しているが、ヒヤリハット・事故等予防委員会との協力実施によって、より理解や仕事上のリスク回避が出来るように作ってあるので、それを、関わる職員やそのようなケースを的確に職員同士で話し合っ対応出来る様にする。	身体拘束予防委員会とヒヤリハット・事故等予防委員会にて、職員や利用者に関する情報を的確に合わせて分析検討して、次からのリスク回避や職員の労力軽減につなげた対応を的確に出来る様に結果を残す。	12ヶ月
4	【17】	週に2回から3回の入浴と、また、出来ない時の代替支援をする様になっている。個々の入浴の希望を再度確認してみたり、対応についての調整工夫をしたいと思う。	再度、各利用者様の入浴に関して、的確で適切な頻度や内容の入浴介助が行われているかを再アセスメントして、検討したうえでサービスの向上に繋げていく。	各利用者様の入浴サービスについて、特徴等をアセスして、その頻度や内容を申し送り、拒否の傾向や代替サービスの実施としての案を適切に上げておくようにする。年に1回の強化月間等にて実施を試みる。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。